

# クリスチャンプレイズチャーチのメッセージ



2013年6月30日 山上宝訓シリーズ(6) 【心のきよい者が幸いです。】

聖書：マタイの福音書5：1-10 / 今週の暗唱聖句；詩篇24：4-5節

説教者；鄭南哲 牧師

## ＜1. 人の心の中心を大事に見ておられる神様＞

人々はお金さえあれば人生は幸福だと思います。そしたらお金がどのくらいあれば幸福でしょうか。“人間を幸せにさせるためいくら位のお金が必要なのか”という質問がアメリカの大金持ちの代名詞であるジョンロックペラー (John Rockefeller) にされた時、彼は不朽 (ふきゅう) の名答 (めいとう) を残したそうです。“**今もっているお金にもうちょっとあれば。**” 私たち人間はお金をどんなにたくさん持っていても‘もうちょっと’を願う心があるため幸せを感じれないのではありませんか。

世界的なクリスチャン医者であり、作家であった ポール・トゥルニエ (Paul Tournier) は、“人間の人生の期間を大きく三つの部分に分けられます。幼児期と少年期の時、子供たちは主にほしがる熱望を強く持つ。子供たちは“僕の”に対する所有意識がとんな時期より強いのだ。しかし、子供だけではなく、大人になっても相変わらず所有の執着から解放されてないなら、体は大人になっても内面は幼児期に止まっている。

反面、青年の時期は経験の熱望がどんな時よりも強い時期である。青年たちは今まで味わったことのない新しい体験、新しい課題、新しい世界へ挑もうとする熱望がどんな時期よりも強いのだ。そして、壮年 (そうねん) 期には人格の熱望が強くなる。自分の人生を整理する時間が近づけば近づくほど、聖い神様の御前に立つべき時間が近づけば近づくほど、“自分はどんな人間だったのか、どんな信仰と心を持って生きて来たのか” 人格の熱望が一番強くなるとポール・トゥルニエ (Paul Tournier) は強調しました。生きておられる主の御前では今まで自分がいくらの財産やお金を儲けて来たのかは全然重要ではありません。

今日イエス様は何よりも心においてきよい者が (the pure in heart) 幸いですと言われました。

みなさんはイエス様の言われる言葉に同意しますか。お金より、ほかのどんなものより心が大切だと言われたイエス様の御言葉がみなさんは理解できますか。そしたらなぜそれほど心が大切でしょうか。

神様は聖書を通してどんなものよりも心がどれだけ大事なのか様々な箇所で行われました。箴言4：23節をどなたが読んでくださいますか。“**力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。命の泉はこれからわく。**”

神様は命の泉は心にあると言われます。ですから何よりも心を見守るように命じておられるのです。ある人たちは今日環境がすべての問題の原因だと思います。環境が悪いため人間が悪くなり、それによってすべての問題が発生されるのだと主張します。もちろん部分的に正しいかもしれませんが、全部が正しいとは言えません。旧約聖書の創世記を見ると最初の人間であったアダムとエバがエデンの園というすばらしい環境に置かれていた時でさえ罪を犯したという事実がわかります。ですから環境ではなく人間の心の問題です。

エレミヤ17：9節には“**人の心は何よりも陰険 (いんけん) でそれは直らない。だれが、それを知る事ができよう。**”

人々のあらゆる問題の根本は人間の腐敗している心にあることを聖書は語っています。つまりイエス様はあらゆる問題の根が心にあるため心をもっとしっかり直さなければ、根本的な問題の解決と回復はできないことをご存知だったため、私たちに心のきよい者になるようにとお願いしたのです。

## ＜2. 心と言動が違って叱られたパリサイ人たち＞

愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさん!

キリスト教はハートで信じる信仰です。もちろん聖書の知識も、教理も大切です。しかし頭で知る事がキリスト教の全部だと思うならそれは錯覚です。聖書の学びもただ自分の興味を満たすため、それとも頭で分かってくるのが楽しくてやるところで止まってははいけません。頭と口ではたくさんを知って、言っても心が神様と遠ざ

けられている人たちに向ってイエス様は次のようにしかられました。“そこで主は仰せられた。この民は口先で近づき、くちびるでわたしをあがめるが、その心はわたしから遠く離れている。（イザヤ 29;13, マルコ 7;6）”

イエス様の時代、パリサイ人のように倫理的に、信仰生活においてもきよい生活を強調して人たちもいなかったと思います。彼らは“きよらかな生活にとつてもなれていました。そして、そのため、彼らは約600以上の規則や律法を作ってきたためやるべきことややっってはいけないこと、食べても良い食と食べると汚される食べ物、さらには触っても良い物と触ると汚れてしまうものまでルールを作って自分たちは一番正しく熱心に守っている者たちだと誇りをもって思いこんでいました。しかしイエス様からは彼らは言葉と表だけで心はまったくそうではない偽善者たちであり、実は神様から遠く離れている者たちだと呪われ、叱られてしまいました。

イエス様は当時、外面はとっても敬虔で、自分だけが義人のようにふるまっていたパリサイ人たちと律法学者たちに対して彼らの実際の姿をさらけ出し、ひどくしかられました。人々たちのまえではきよくふるまうが、本当は強奪（ごうだつ）と放縦（ほうじゅう）でいっぱいだとされました（マタイ 23;25, ;28）。

“わざわざ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは白くぬった墓のようなものです。墓はその外側は美しく見えても、内側は、死人の骨や、あらゆる汚れたものがいっぱいです（マタイ 23;27）。”

私たちの信仰において心は神様が核心的にみられるところです。どんなに頭に聖書の知識があっても、手足を動かして実践したとしてもきよい心を持ってこれらのすべてを行なわなければ私たちもパリサイ人たちと同じように偽善的で、いつわりでいっぱいのものになりがちである事実を私たちは忘れてはいけません。

“わたし、主が心を探り、思いを調べ、それぞれその生き方により、行いの結ぶ実によって報いる。（エレミヤ 17;10）”，“ああ、あなたは心のうちの真実を喜ばれます。（詩篇 51;6）”

### <3.神様の御前で心のきよい人はどんな人でしょうか。>

するとイエス様の言われる心のきよいこととは何を意味しているのでしょうか。

一つ目、心がきよいということは洗い清められていること、汚れと、きたなきがないことを意味します。

“きよい”という言葉はギリシャ語で“カタロス”という単語であり、このカタロスという言葉の動詞は‘カタリゾ’という言葉で書かれています。今日心理学用語として英語でよく使われている“カタルシス(Catharsis)”という言葉は同じ語源から派生され使われています。その意味は“心が浄化される。情緒が純化される。”という意味になります。言い換えると、我々の心は本来‘きよくない’ということを前提しています。

エレミヤ17:9節には“人の心は何よりも陰険（いんけん）でそれは直らない。だれが、それを知る事ができよう。”またイエス様もマタイの福音書15章17節-19節にも“口にはいる物はみな、腹にはいり、かわやに捨てられることを知らないのですか。:18 しかし、口から出るものは、心から出て来ます。それは人を汚します。:19 悪い考え、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、ののしりは心から出て来る。”だと語られました。

スタンリージョンスーという先生は心のきよさは義と哀れみを混合（こんごう）してつくられた純粋だと定義しました。つまり神様の御前で罪といつわりとは妥協（だきょう）しないで、むしろそれを忌み嫌い、神様に喜ばれる義の道をひたすら歩もうとする心です。神様の前で心のきよい心はなんとかして東京には早く着けばそれでいいというこの世の考え方！つまり、過程は正しくなく、いつわりで他人をだまし、不義であっても結果さえよければよしとするこの世の価値観とは妥協しません。そういうわけですから時には結果は多少遅くなり、損を受けるかも知れません。しかし東京には予想時間より遅く着くかもしれませんが、詩篇 1 篇の御言葉のように悪者のはかりごとには歩まず、罪人の道に立たず、あざける者の座につかない心、ただ神様の御言葉どおりに生きようとする心、それがまさに神様の前で心のきよい心だという事です。

二つ目に、“心がきよい(カタロス)”とは二つの心、分かれた心ではなく、神様の前で一つの心をもつことです。

またこのきよいと単語の意味には、“**混ぜられてない心**”だと言えます。有名なキリスト哲学者であったデンマークのキェルケゴール(Søren Kierkegaard)はこのきよい心とは“**神様に向うひたすらな心**”であると解釈しました。つまり、“**神様に対する一心(singleness of mind)**”であるということです。

二つの心ではなく一つの心とはどんなことですか。神様の前で何かを隠している心をきよい心だとは言えないと思います。神様の前で二つの心をもたないで純粹に神様だけを見あげ正しく行なう人こそ心のきよい人だと言えるでしょう。目に見える外側はもっともらしいですが、本当は内側が違うのもきよい心だと言えないと思います。神様の前で異なる二つの心を持っているのはきよい心ではありません。それで新約聖書では‘きよい’の反対の意味で‘偽善’という単語をよく使っているのです。そしたら、きよい心はどんな心でしょうか。神様の前でひたすら一つの心を持つことです。神様を信じながらも心は神様が喜ばれない悪い考え、淫乱な情欲、いつわり、焼きもち、神様を知らない人たちがもっている価値観などを同じようにもっている二つの心は捨てなければならないと思います。

エレミヤ書 32 章 39 節で神様はこう語られています。

“わたしは、彼らと彼らの後の子らの幸福のために、彼らに一つの心と一の道を与え”

“分けられてない心、聖い神様に向って捧げる全きの心”を神様は望んでおられます。

詩篇 119 篇 2 節では“**幸いなことよ。主のさとしを守り、心を尽くして主を尋ね求める人々**”

詩篇 86 篇 11 節でダビデは神様の御前で心のきよい人になることを願いながら“**わたしの心を一つにしてください。**”と祈りました。ですからただ神様に対して一つの心をもって生きる人たちは言葉と行動が神様の御心と一致して生きることなのです。

#### <4.心がきよくなる方法はなんですか。>

するとこのきよい心を所有することは自分たちの力で可能でしょうか。そうではありません。罪から離れきよい心をいつも保つという事が自分の力ではけっしてできないことをだれよりも自分たちがよくご存知だと思います。

どうすればこのきよい心を持つことができるでしょうか。

聖書では信仰の決断によって神様が与えて下さることであると教えられています。エゼキエル書 36 章 26 節以下に、神様は預言者を通してこう語られました。“**あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。**”この御言葉を通して分かるのはきよい心は聖なる神様から与えられるということです。

神様は私たちを自分たちの力ではない聖霊様と神様の御言葉に頼りきよい心と得、守られるように助けてくださいます。“**私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。(ガラテヤ 5:16)**”、“**真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です (ヨハネ 17:17)**。”

私とみなさんの心はいまどうでしょうか。家の掃除をすると家中がきれいになるように、私たちの心の掃除もいつも神様の御言葉と聖霊様の助けによってしていく時ようやく私たちの心の部屋もきれいにされると信じます。イエス様を信じた後でもいまだに心のある部屋の扉を閉めておく方々はいませんか。心の部屋の扉を神様の御言葉と聖霊様を開く時、私たちの心のすべての部屋はきれいにされ、きよめられると信じます。

ダビデは神様の前でこのように祈りました。詩篇 51 篇 10 節をどなたが読んでくださいますか。

“**神よ。私にきよい心を造り、ゆるがない霊を私のうちに新しくしてください。**”

神様を慕い求める者を神様は訓練させ、きよめさせてくださるので心のきよい者になれると信じます。

#### <5.神様を見られる祝福: 神を見ることはどんな意味でしょうか。>

心のきよい者に与えられる祝福の約束はなんでしょうか。心のきよい人は神様をみるとイエス様は言われました。神様をみるということは祝福の中の祝福です。私たち人間のあらゆる問題は神様をみることで全部解決されるからです。神様をみる人は絶望しません。神様が見えるという事は希望がみえることと同じ意味だからです。神様をみることができる人は不義を行なえません。あらゆる不義は神様が見えないため行なうことだからです。たとえば、信号を違反し、気ままに運転する人でさえもさすがに警察官が見張っていると信号を守ります。警察官の前で信号を違反する人はあまりいないと思います。どんなに罪を犯し、むやみに生きる人でさえも神様の見える前では罪を犯さないと思います。神様をみるということは人生の回答をみることと同じだからです。

すると心のきよい人は神様をみると言われましたが、神をみることはどんな意味でしょうか。

神様をみる自体を神秘的に理解してはいけません。そしたらどんな意味ですか。

**神様を見るということは日々生活のなかで神様を体験する事を言います。** ヘブル書 11: 26-27 節でモーセは信仰によって神様をみるようにして忍び通したと記されています。どなたが読んでくださいますか。

**神様を見る事は神様と親しい交わりをすることを意味します。** つまり私たちの日常生活のなかで神様の臨在をつよく感じながら神様との親密な交わりをすることです。聖書には正しい者は神様と交われると書かれています。 “主はよこしまな者を忌み嫌い、直ぐな者と親しくされる(箴言 3:32)。”

“私はいつも、私の前に主を置いた。主が私の右におられるので、私はゆるぐ事がない。それゆえ、私の心は喜び、私のたましいは楽しんでいる。私の身もまた安らかに住まおう (詩篇 16 篇 8 - 9 節)。”

**神様を見る事は神様に対する絶対信仰と確信と望みがあるということです。** 旧約聖書に出るヨブという人は苦難を受ける前も、苦難の中であっても神様をよく信じましたが、苦難を受けた後は神様をさらに信頼する者になりました。ヨブの信仰の告白を聞いてみましょう。ヨブ記 42:5 節で “私はあなたの うわさを耳で聞いていました。しかし、今、この目であなたを見ました。” ヨブの信仰は神様の摂理の中で苦難を耐え忍んだ後、神様について聞いたレベルから見るレベルまで上がったのです。

#### 例え) クモの話

クモが朝起きてえさを探し出す前にやることはなにかご存知ですか。やぶれたクモの巣をかけるのだそうです。しかも始まる時、クモの巣の中心から出発するそうです。私たちも神様の御前でいまやぶられていて、その心が神様から遠く離れているなら何よりもまず人生の中心である心を神様にささげ、新たにされていくべきではないかと思えます。私たちみな心のきよい者となって一人一人の体と心が神様の聖殿とされ日々神様とともに生きる恵みを受けますように心からお祈り申し上げます(エペソ 2:21-22)。

愛する信仰の家族のみなさん!信仰は決して人々に見せるためのショー(show)ではなく心である事を忘れないでください。心を尽くし、精神を尽くして神様を愛し、つかえればいつくしみぶかい主を体験されると信じます。私たちのきよい心は黄金の口より尊いと信じます。

“主はその御目をもって、あまねく全地を見渡し、その心のご自分と全く一つになっている人々に御力をあらわしてくださるのです(第二歴代誌 16:9)。” 私たちも今日もう一度、全力と一心に神様をつかえ、日々生きておられる神様を見る祝福、神様の命と力と豊かさを体験し、日々神様と交われるクリスチャンプレイズチャーチのみなさんとなりますよう主イエスキリストの御名によって祝福します。

#### < 祈り >

主よ、十字架の血潮によって私のあらゆる罪を洗い清め、心のきよい人とさせてくださいますように。それによってこの地においてでもいつも生きておられる神様を見ているように交わり、体験できる祝福のある者となりますように助けてください。イエスキリストの御名によって祈ります。アーメン!